

鬼瓦のルーツを尋ねて 韓国へ ⑪

4度目の韓国・濟州島

前橋市 富山 弘毅

韓国の古都・慶州で独自行動などしてから4年間、鬼探しは国内ばかりでした。

2008年春、「疲れた。どこかへ旅行しない?」と私。「そうね。3泊くらいなら」と妻。海外とはいえないくらい近いところで、春が素敵らしいと聞いて選んだのが韓国南部の濟州島です。

だから、鬼瓦探しの計画的な旅ではなく、休養と観光が目的。近畿日本ツーリストの「濟州島一周4日間」(2人から催行)で、幸いなことに参加は私たちだけでした。

それが「瓢箪から駒」で、「濟州4・3事件」を学ぶ「学習の旅」になったのでした。(日朝協会「日本と朝鮮」群馬版2008年4月~7月連載)

でも、「好きなペットは鬼瓦」という私の血は、どこへ行っても騒ぎ始めます。寺、宮殿はもちろん、古そうな建物からヨン様などの韓風ドラマを撮ったロケ地まで、自然に鬼瓦を探していたのです。

薬泉寺に極彩色の龍の絵



濟州島 薬泉寺

濟州島で一番の寺は、薬泉寺です。大きな建物がいくつもあり、極彩色で模様が描かれていましたが、「あれ? あれは何?」と妻が声を上げたのが、軒下や柱にある

マンガチックな顔の絵。それは龍でした。



濟州島 薬泉寺 龍の絵
(上・下とも)



龍は王の化身。そういえば2010年秋、ソウルの韓国戦争記念館の展示で見学した「弾除け」に、同様のデザインの龍が描かれていました。

濟州島以外の韓国寺院でも、よく目にする絵です。



韓国戦争記念館 弾除け 龍

カラフルな竜の鬼瓦も

案内書には載っていない寺を地図で発見し、テクテクたどり着いたのが宝林寺でした。屋根の上で目に付くのは龍ばかり。韓国の龍は大きな耳と鹿のような角が特徴で、宝珠をくわえています。



濟州島 宝林寺 本堂 龍

サラボン公園の入口には山門風の建物があり、鮮やかな色彩の龍が1の鬼に、色のない（薄茶色の瓦色）の龍が2の鬼の位置に、載っていました。



濟州島 サラボン公園入口 龍

日本の寺院などで見るリアリスティックな龍とは、かなり違います。

日本の竜面鬼瓦

日本で類似の面相を私が発見したのは、広島県宇治平等院鳳凰堂と、福山市の明王院山門の龍面文鬼瓦でした。



広島県 福山市明王院 山門 南西降り鬼（龍）

日本の龍面鬼瓦は少なく、私がかつてに発見したのは100個台ですが、とがった角と牙、ギョロ目、とげのあるうろこなどで、抜群の存在感です。



(右) 京都市 東福寺 経蔵
東南1層 1鬼
(上) 京都市 真如堂 東南1
鬼龍



京都市 金戒光明寺 清和殿玄関西 龍



広島県 福山市 西光寺
手水所 龍

水を司る架空の怪獣ですが、古寺や古塔の東南東（辰＝たつ）または東南の方位の隅に載っていることが多いのです。鬼と同様、日本で独自のイメージに成長発展してデザイン化され、鬼瓦の仲間に入っているのでしょう。

鬼瓦風の彫刻、鬼板を発見

でも、4日間の濟州島めぐりの中でラッキーなことに2か所で鬼を発見しました。

一つ目は、観光施設のパーク・サザンランドで見つけた鬼瓦風の彫刻です。なかなか愛らしい顔をしています。



濟州島
パークサザンランド
彫刻

2つ目は、帰途に着いて空港へ向かう途中ででした。「濟州4・3事件」発生のある観徳亭の写真を撮るため、車を止めてもらいました。その観徳亭の軒下に、立派な鬼板が掛かっていたのです。



濟州島 観徳亭

濟州4・3事件発生のもので

濟州4・3事件は1948年4月3日に起こったとされますが、その発端は1947年3月1日でした。三・一独立運動の「第28周年3・1節記念集会」で観徳亭前に集まった住民の行進に、米軍と警官隊が機関銃とカービン銃で立ちはだかり、小学5年の男の子が警官の馬に踏まれて命を奪われました。

逃げた警官を追う群衆のうち6人が銃弾で死に、他の6人が重傷を負いました。これに抗議するゼネストが広がり、全島はマヒ状態になりました。これへの徹底的な弾圧が、1年後の4・3事件を生み出したのでした。自治的、民主的な住民の動きを米軍と官憲、右翼が「アカ狩り」し、死亡・行方不明は政府報告でも2万5千～3万人に達しました。真相究明の長い戦いの末、韓国国会は1999年「濟州4・3事件真相究明および犠牲者名誉回復に関する特別法」を可決、政府は2003年「国家権力の過ち」だったと正式に謝罪しました。

その大事件の始点ともいべき場所・観徳亭で、偶然にも鬼に出会えるとは！ ラッキーでした。



濟州島_ 観徳亭 鬼板

残念なことに、これらは「鬼瓦」というより「鬼板」でした。この濟州島旅行は、鬼瓦のルーツを尋ねる上では、収穫の乏しいものでした。やっぱり、いい加減な気持

で出掛けたのでは探求にはならない、計画的な旅にしなければ、と痛感しました。

そんな反省の上に立って、いよいよ鬼瓦とそのルーツを探ることだけを目的にした韓国旅行を決心しました。

鬼瓦探しの旅に三つのカベ

しかし、壁はあるのです。

1 番目は、言葉です。相変わらず韓国語の勉強は不真面目でしたから、日本語が少しは出来る運転手のタクシーを使えるかどうかが課題でした。事情に詳しい友人がネット検索を教えてくださいました。

2 番目は、お天気です。撮影は、雨では話になりません。大体、鬼瓦は静止しているから撮影しやすいはずなのですが、フラッシュの届かない距離にあるので、雨天はもちろん、薄暗くなるとよく撮れません。鬼瓦はほとんど下を向いているので、太陽が高いと日陰になってしまい、鬼瓦の顔や模様が写せません。初春、晩秋、冬と朝夕の日の光が斜めの時が好適です。

シャッター露出時間を長くすると、ブレてしまいます。高いところにカメラを向けるので、否応なしに腕が体から離れるのです。三脚は重いし、がさばるので、旅行には向きません。一脚を持っていきますが、それでも長い望遠レンズではブレやすい。結構、苦労があるのです。

3 番目は、航空機とホテルの予約です。外国のお天気長期予報の正確さはかなり怪しく、しかも、せいぜい 1 週間予報ですから、日程を決めてきた時には格安の座席やホテルはなくなって、割高になります。日本語スタッフがいたのは高級ホテルですから、ますます高い部屋しか残っていないことがわかって、参りました。

要するに、旅行会社のツアーのように 2～3 か月前から決めるなどというわけにはいかないのです。

韓国へのひとり旅を準備

でも、ぐずぐずしていると、体力も気力も衰えて、出かけられなくなりそうです。

案ずるより生むは安し。エイヤッと思い切って、2010 年 11 月、ソウル 3 連泊の鬼探しを決断しました。全く 1 人だけの海外旅行は初めてでした。

昼に着く航空機の座席を確保しました。

日本語 OK のタクシーと契約、金浦空港に迎えに来てもらい、ホテルへの途中、いくつかの寺に寄り道することにしました。

日本語スタッフのいる明洞（ミョンドン）近くのホテルと契約しました。

これらをすべてインターネットでやったのですが、まだ、難問がありました。いったい、どこにどんな寺があるのか、わからないのです。

友人が、日本人観光客の「テンプルステイ（短期修行）」を受け入れる古寺のガイドブック（観光パンフ）と、やや詳しい全国地図を入手してくれました。

一方、山田修『韓国古寺探訪』、同『韓国古寺探訪の魅力』、桑野淳一『韓国古寺紀行』などの書物を読みました。

日本と違う韓国の寺院

おどろきました。寺は街の中にはほとんどなく、山の奥深くにあって、バスが通っていても 1 日 1 寺がやっとです。それも、バスの発着基地の近くに宿を取らないと、帰れなくなりそうです。

日本なら、寺町など寺が密集している地域が都市にはあり、1 日歩けば 10 数軒から 50 軒も回れますが、韓国ではタクシーをまる 1 日飛ばしても 4～5 か所の寺を回るのが精いっぱいらしいのです。

韓国では、寺は修行の道場であって、檀家と墓地を抱え葬儀や法事を行うのをもっぱらにする日本の寺とはかなり違います。比叡山延曆寺や高野山金剛峰寺の小規模なものをイメージすればよいでしょう。

ソウルを基地とする 3 泊 4 日の行動で、果たしていくつの寺院を回れるのか、心もとなくなりました。（つづく）